

令和7年度第1回乳幼児教育保育の質の向上に関する懇談会でいただいた御意見

資料1

第1回乳幼児教育保育の質の向上に関する懇談会でいただいた御意見			回答	実施状況、今後の方向性など
① 家庭、地域との連携・協働	伊藤様	園が地域の当事者として小学校に関わっていないことは <u>園の問題</u> 。研修会なども必要だが、文部科学省が推進してる <u>コミュニティスクール、学校運営協議会制度</u> にもっと園が参加し、一緒に作っていく方向になればよい。園が、その協議会のメンバーから外れている地域もあると聞いている。もちろん校長がメンバーを決めるので、仕方がないが、そのような場に地域にある園がしっかり入るような制度にならないか。このことにより、個人の熱意や情熱ではなくても、 <u>地域として、そういう制度として、小学校と一緒に作っていく方向になればよい</u> 。	教育委員会指導第一課 こども未来局 幼保企画課	各小学校区に設置されている幼保小連携推進委員会を中心としながら架け橋期の教育の充実を図るとともに、 <u>幼児教育・保育施設、小・中学校、家庭、地域など</u> こどもに関わる人が連携・協働することができるよう、 <u>コミュニティスクール等</u> の機会の活用も含めて各地域における環境づくり・関係づくりに努めていきたい。
	堂山様	幼保小接続は施設間だけのことだけではなく、地域や家庭も一緒に巻き込んで、こどもの経験について模索していくのがよいのではないか。保護者の視点もあればよい。		
	渡邊様	できれば小学校に「 <u>学ぶとはどういうことか</u> 」について考えてもらい、 <u>幼児期に園で育てることは、こどもを座らせることや文字や数を教えることではなく、自分が生き生きしていることで探究する力をつけていくことであることを明らかにしていきたい</u> 。また、それが大事だということは入園前の保護者にも言わないといけない。保護者は、 <u>探究型の授業</u> といっても、「 <u>何故、教科書で教えないんですか</u> 」となる。学校が苦しいのはこどもに <u>社会性が育っていないことや、親が(学校を)アウトソーシングのように捉え、サービスの施設に預ければいい、何かやってくれればいいと慣れてしまうこと</u> で、結局、「 <u>学校が何もやってくれない</u> 」という話になってしまう。		
	木村様	一人一人の育ちを支える環境、教育の連続の必要性について色々な角度から議論されている。各施設、現場、保護者の立場、こどもの立場から考えた時、全てが繋がることはどういうことなのかについて真剣に考えていかなければ、これは難しい問題であると思う。幼稚園教育要領改定に向けて、中央教育審議会「 <u>教育課程企画特別部会</u> 」が開催されている。その資料を見ると、乳幼児期からの主体的な遊び等、身近な環境に働きかけての探索、探究を通した活動による学びが小学校以降の基盤になっていくことを具体的に示す必要があるという意見、多種多様な施設形態、実践があり、質の高い幼児教育について理解が不十分なまま幼保小接続が留まる可能性もなきにしもあらずという意見があった。その対処については、今持っているものを最大限に生かしていく、広げていく、各施設の違いがある部分も、互いに共有、公開し、こどもの側から教育の連続性について精査していかないといけないと感じている。		
	伊藤様	全体の課題として、 <u>小学校側からは、園により保育観に違いがあり、やっている内容が違うのではないかという意見がある</u> 。園側からは、 <u>小学校が変わってくれない、小学校がやってくれないという意見があり、園も一緒に変わっていくという感覚が低い</u> 。学校だけではなく、園も一緒に進めていく、協働していく意識が薄い。他に、継続的な取組みのこと、校長が変わったら変わることを、学校教員により理解の差が大きいこと等があり、とても理解がある先生もいれば、担任が変わると、ゼロに戻ってしまうこともある。そして、学校の先生が忙し過ぎて、話し合いの機会がなかなかもない。		
	木村様	架け橋だより3ページ、「 <u>幼児教育・保育はどのようなものか</u> 」の質問に対して、「ある程度自立した生活を送れるよう、支える」、「コミュニケーション、集団での体験を通して、周囲の人との関わりを学ぶ」とある。実践現場からすると、もう少し豊かなことをやっている。一人一人の成長や年齢差はあるが、自己実現、自己肯定感を高める体験の積み重ねを一生懸命追求するのが探索、探究であり、生活・遊びである。そのことを伝えていく必要があると感じた。就学前が大切であり、今後、不測の事態が想定される時代を生きていくこどもが、今、経験するべきことは、単に集団生活を生き抜いていくということではなく、 <u>何を経験させなければいけないかということ</u> 。そのことについて校長先生・園長先生で共有していく必要があると感じた。		
② 研修・人材育成・保育や授業の改善	伊藤様	自身の小学校区では、取組がよい方向に向かってきている。小学校が園見学をする際には、小学校区内にある他の園にも来てもらい、こどもと一緒に見て、その後、協議の時間を30分程度設けている。その積み重ねができ、今年は特に良くなってきた。今年は、私が小学校に出向き、今の園ではどのようなことをやっているのか、何が違うのか、学校とどのように理解が違うのかについて、1時間程、全職員に話を聞いてもらい、小学校職員の理解が変わってきたように感じる。	教育委員会指導第一課	小学校区により、実態や状況、地域性が様々ある。昨年度から小学校長会等において、 <u>幼保小接続について話をしたところ、少しずつ理解が広まってきていると感じている</u> 。これからも継続して、取組等について伝えていきたい。（8/18回答）
	伊藤様	対応の時間が少ないこと。小学校の先生は、忙し過ぎる。できれば小学校に、もっと職員を入れてあげることができればよいと思う。近隣の小学校は、昨年度まで働き方改革のモデル校になり、かなり変わってきた。 <u>小学校の先生に少し余裕が</u> でき、そうすると、 <u>就学前施設と話してみよう</u> と意識を向けてくれる。学校の働き方改革も同時に進めてもらえたらよい。	教育委員会 教育企画課	・広島市の学校における働き方改革の推進については、「子どもたちにより良い教育を提供する」という教育の質の向上を目指すことに軸足を置いて、業務の効率化等による教員の負担軽減や心身の健康の保持等に取り組んでいる中、ご紹介いただいた事例は一つの成果と言える。 ・引き続き、学校と教育委員会、その他全ての関係者が一体となって取組を進めていきたい。
	渡邊様	架け橋をやっている小学校は、行き渋りと不登校がなくなったと聞いている。それぞれのこどもの居場所をつくってあげていた。あと、人に対しての思いやりが育ってきた等の話を聞く。学校という枠の中に当てはめるのではなく、それぞれのこどもに居場所がある。先生の関わり方によって、学校が変わることを、目の当たりにする。広島でも好事例が沢山あるはず。そういうことが本当はこどもにとって大事なことなんだという考えに行き着くために、何をしていくか。是非、検討を進めて欲しい。	こども未来局 幼保企画課	・幼保小の接続に対して専門的な指導・助言を行うため、将来の架け橋期のコーディネーターとなる人材の育成、幼児教育と小学校教育の双方に精通する乳幼児教育保育のアドバイザーの配置を引き続き行っていきたい。 ・幼保小接続担当者に幼保小接続に係る研修会に積極的に参加してもらえるよう、その必要性について周知をしていきたい。 ・「令和7年度広島市幼保小の架け橋プログラムシンポジウム」を開催し、広島市立学校研究指定校の幼保小連携推進園・校での実践を基に、広島市内の公立・私立の幼稚園・認定こども園・保育園等、小学校において幼児教育・保育や小学校教育に携わる教諭、保育士等が一堂に会し、架け橋期における接続の推進を図ることとしている。
	徳永様	幼保小の接続に係る講話は小学校と保育園の全職員が参加したのか。		
	伊藤様	夏休み中に小学校の全職員に聞いてもらい、当日、欠席した職員には動画を視聴してもらった。園の職員は参加せず、小学校の先生に対して、就学前に何をやっているかを理解してもらう内容で話した。		
	宮地様	説明にあった、「架け橋期のコーディネーター」についてとなるが、協議などの際に架け橋期の視点、小学校との学びのつながりについての示唆ができる人材の育成は大切だと感じた。		
	渡邊様	架け橋は、こどもにとって、学校にとって、園にとって本当に面白い、楽しいものである。小学校側では、幼児教育の考え方に触れると、学校の授業が楽しくなった、園側では小学校の先生と話し授業・保育のやり方が変わり、探究のように調べ、色々なことをやりだしたなどの好事例を通して、面白さを見つけ、どのようにアプローチしていくかを考えないといけない。文部科学省が作成した「 <u>幼児期に本当に大切な学ばせて何ですか？</u> 」の動画では、「これからの教育は変わっていきますよ、その基礎を作るのが幼児期の遊びですよ」といった説明がなされており、これだけでも共通理解したほうがよく、「保護者にも見せたい」とリーダー的な立場の人が思っていないかと保護者に伝わるものも伝わらない。広島市のこどもをどう育てていくかという話だ。		
	渡邊様	高知県には架け橋に関する総括の動画がある。その後半部分、1年生を久しぶりに受け持ったベテランの先生が話す様子がある。こどもが朝から「歌おう」、「猛獣狩りのゲームをやろう」と提案してきて、「こんなに教えることがあるのにと」思ったけれど、こどもの望むゲームをすると音楽でよく歌うし、意欲的に漢字を教えてと言ってくる。こどもは、やりたくなったらこんなにやるのだと感じた、こどもに委ねたら、力を発揮するし、学びたがるのだと感じたコメントしていた。	こども未来局 幼保企画課	「令和7年度各区における幼保小接続に関する合同研修会」は悉皆の研修にしていらないが、5歳児の担任、幼保小接続担当、1年生の担任等383施設、144校の参加があった。参加状況やアンケート回答については参考資料のとおり。令和8年度も研修を継続する予定である。
	伊藤様	継続的な取組みとして行うため、 <u>幼保小に係る研修会を使い、同じ方向に向かっていきたい</u> 。		
	伊藤様	<u>学校教育間の理解、教員間の格差のところ</u> 。乳幼児教育保育支援センターが全区で行う研修は、よい研修であり、とても効果がある。できれば、 <u>全ての職員がそのような話を聞けるよう、就学前は何をやってるのか、どこが一緒でどう違うのかを理解できるような研修をやってもらいたい</u> 。		
	徳永様	ベテランと新任の違いを少しでも解消していくためには新任の先生にどのように教育するのが非常に大事となるが、 <u>幼保小連携の合同研修会は、1年生担任の先生は必修なのか、自由参加なのかについても教えて欲しい</u> 。	教育委員会 教育センター	初任者研修では、幼保小接続に係る内容について、共通の研修としては実施していないが、資料2のとおり、初任者の課題に応じた研修の中で他校視察があり、幼稚園、保育園を視察し、研修をしているものもある。特に、小学校1年生を担当している初任者は、幼稚園や保育園に視察を行うことが多い。今後、初任者を指導する先生「初任者研修指導教員研修」において他校種視察の事例を紹介しながら促していきたい。（8/18回答）
	朝倉様	<u>新任の先生や初めて1年生を担当する先生に対する研修についてはどうか</u> 。		
	徳永様	小学校の状況によるが、1年生の担任に、新任者になることはあまりなく、何年か経って初めて1年生を担当する場合が多いようである。その際に、 <u>1年生担任の先生が、幼保の保育・教育の状況を知っていることは大事になる。初めて1年生の担当する先生を対象とした研修があってもよいのではないか</u> 。		

	渡邊様	本市の話となるが、若い先生は柔軟で、ベテランの先生のほうが硬いということはある。こどもの主体性を生かし、こどもの声を聞こうとする若い先生はいるが、上手に教科書を教えることができる先生は、どちらかというとベテランのほうが多い。	こども未来局 幼保企画課 教育委員会 指導第一課	
	宮地様	他の御意見にあるように、広島市としてというところを考えていきたい。自園でも、小学校と近隣園に来てもらい公開保育を行っている。事後のカンファレンスはとても大切だと感じている。こどもが必死に遊ぶ様子を見た後のカンファレンスでは、色々な遊びが学びにつながっていることを小学校の先生に実感してもらうことができた。園も言葉で丁寧に説明をしていくことが大切だと感じる。小学校の先生から、「本当はもっとじっくりと付き合いたいけれど、時間が足りなくて」などの悩みも出され、小学校の先生にも一生懸命に考えてもらっていると感じた。保育や授業を見合う中で、園が大事にしていることを伝えていくなど、話し合いの機会を大切にしたい。		
	渡邊様	教育がどう変わっていくか、保育がどう変わっていくか、主体的・対話的で深い学びについて話す時には、できれば、若い先生たちに教育の面白さを知ってもらう機会があったほうがよいと感じている。		
	築地様	小学校では授業改善を進めているところであり、教師主導にならないように考えている。		
	伊藤様	保育の現場でも、若い人は新しいことをどんどん学び、こどもが主体となるような学びを保育でしようとするが、年配の昔からいる先生がそれを潰してしまう現状が結構あるのではないかな。		
	渡邊様	平成元年に学習指導要領や幼稚園教育要領の改訂の際に、教育観、こども観は変わったが、全体的には広がらず、小学校の先生も教科書をきちんと教えることがよいと思っている人が多い。ただ、皆に、教科書で一斉に同じ時間に同じことを同じようにできるのは限界があり、不登校、行き渋り、いじめなども起こっている。早生まれの問題というより、色々なこどもがいて、そのこどもに合った保育・教育をどういうふうにするのが架け橋の肝である。そうすると、一人一人が生き生きと、園であろうと学校だろうと自分の居場所があり、そこで学ぶことが楽しいと思えるような授業・保育をどうするかについて押さえておかないといけない。		
	渡邊様	授業が変わる、保育が変わる、こどもが楽しく自分の意見を出し、友達と関わって相談し、探究的な活動が増えていくことについて、小学校の先生、教育委員会、福祉部局、みんなで広島の子どもが育っていく保育・教育をどのように実現していくのかを考えていかなければならない。その投げ掛けもないまま、連携をやりますと言うだけでは授業も保育も変わらない。		
③ 関係部局の連携	渡邊様	様々な問題について、こどもから悲鳴が出ている。その悲鳴に対して何をどのように変えようとするのかについて、広島の皆様が真剣に考えていかないといけない。今変わらなかったら、多分変わる機会はあまりない。先生・保育者になる魅力も少ない。こどもが生き生きしているまちづくりになっていかないといけない。	幼保企画課 教育委員会 教育企画課	御意見にあるような様々な問題に向き合い一人一人の子どもの学びや育ちを支えているため、関係部局間の連携が一層図られるよう、引き続き、機を捉えて関係部局への働きかけや情報共有等に努めていきたい。
	渡邊様	過疎地は、こどもが生き生きしていなかったら老人ばかりになり、何十年後に町や村がなくなっていく。こどもに対して「生き生き」している所、元気な所には他から転入して来る。未来を生きるこどもに何を大事にしようとするのかを議論できないと、下に行けば行くほどバラバラで、意見が違う、忙しい等になるだろう。	教育委員会 指導第一課	
	渡邊様	今まで待機児童が10人いると、保育施設をつくればよかったが、こどもの数が減り、園が潰れるみたいな状況もある中、「園の保育の質が高まる」、「こどもが育っているとはどのように考えるのか」について議論しておかないといけない。本来に一人一人のこどもが育っているのかをどう判断するのかについて横浜でも結構議論した。各園にアンケートを取り、5年計画の子育てプランの中で、「よこはま保育・教育宣言」をやっていますか」と尋ねた。園で話し合い、多くの先生が「やっている」と思ったら「○」、半分位なら「△」、やってないと「×」となる。他の項目からも実際にやってるかどうか分かるようにした。それぞれの園が、今年よりも来年、来年よりもその翌年に向かって、よりよくなるよう、こどもの話をし、動いていく。それぞれの園がよりよい方向に向かっていくために行政に何ができるかを考えていくことを、横浜で取り組んでいる。広島市もどのように実現していくのか、教育委員会、福祉部局で考えていくことが大事だ。	教育委員会 特別支援課	
			教育委員会 教育センター	
④ 情報発信	徳永様	架け橋だよりの内容では、明らかにベテラン教諭と新任教諭の違いがあり、これを、どう改善していくのが課題だろう。たよりは、各学校にも届けているのか、紙なのか、電子媒体で一斉に配布されてるのか。	こども未来局 幼保企画課	架け橋だよりは、作成したものをPDFにし、電子媒体で全校に送っている。（8/18回答）
	堂山様	質問となるが、資料「外国にルーツをもつこどもへの支援」、「障害のあるこどもへの支援」は、広島市乳幼児教育・保育ビジョンの中で述べていることだと思うが、保護者の視点から、幼保小連携について示唆、情報提供しているのか。	こども未来局 幼保企画課	保護者の視点ではないが、冊子は園と小学校をつなぐことについて記載している。（8/18回答）
	伊藤様	参考までに、保護者向けについては、文部科学省も保護者の理解をどうにかしなくてはという思いがあり、保護者向けに「遊びは学び、学びは遊び、やってみたいが学びの芽」という動画をつくり、YouTubeで配信している。	こども未来局 幼保企画課	本センターが実施する合同研修会や幼保小接続の取組を行っている広島市立学校研究指定校の幼保小連携推進園・校等においてポスターを掲示し、保護者向け動画について紹介、各園での活用を促している。引き続き周知を図っていきたい。
	渡邊様	また、文部科学省が作成している動画のうちの一つ、泥団子の動画では、自園の4歳児が一生懸命、試行錯誤している。動画ではこうやって工夫し、学びの芽が育ってるということを分かりやすく示している。こどもは面白い、小学校の先生も含めて、そういう学校にしていこうという思いをもってほしい。	教育委員会 指導第一課	
	朝倉様	色々な資料が作成され、それが家庭に届くかどうかということが今後の課題だろう。		
⑤ 調査等	堂山様	広島市の小学校の全教員対象に、幼保小連携の課題について、大規模調査、アンケート、を取ったことがあるか。校長に取りまとめを依頼したのではなく、各学校単位で課題についてのアンケート調査というイメージになるのか。	教育委員会 指導第一課	教育委員会から、全小学校に調査しているものはない。令和7年3月に任意で小学校長宛てに依頼し、現状を教育委員会が把握するために行った。試行的なアンケートになる。（8/18回答）
	堂山様	幼保小連携の課題について、連携が課題なのか、それ以外の要素なのか、ぼやけている印象がある。例えば、早生まれのこどもが小学校1年生の教科教育についていけない問題があり、小学校3年生ぐらいになって解消されると言われている。1年生になった段階で、3月生まれと4月生まれでは1年ぐらいの差がある。それについては色々なやり方で支援していくことが大事だと思うが、そういうものは、幼保小連携がうまくいくと解決できる課題なのかどうか。それぞれの事象について精査し、課題解決に向かう際には、幼保小連携が原因なのか否か、そういったところについてミクロの分析を始めてもいいのではないかな。	こども未来局 幼保企画課	本市の架け橋プログラムの実施状況や各小学校区における実態、課題について詳細に把握できるよう、小学校、乳幼児教育・保育施設に対してアンケート調査をしてくことについて考えていきたい。
	堂山様	次に、1つ1つの課題が出され、その対処について話し合いをしている段階だと思うが、体系的に整理をし、原因を特定し、課題解決に向かっていくとよいのではないかな。	教育委員会 指導第一課	
	木村様	幼保小合同研修会の研修後のアンケートの結果については、研修後に、園や学校が実践してみたことなどについて、その後、アンケート等で調査しているのか。研修を受けると十分な理解が進み、自分に置き換えて考える等の成果があると思う。実際それを現場で活かしていくことについて、どのように思いをもっているのか、考えているのを知りたい。		研修後のアンケートは行っているが、フォローアップのようなアンケートはしていない。実効性を高めるためにそのようなことについても考えていきたい。（8/18回答）
⑥ 目指す姿	渡邊様	横浜市で作成した幼保小接続に係る冊子には、「こどもの話をしましょう」、「なぜ、こどもが夢中になっているのか」、「どのような環境があればよいのか」等、話し合い、もっと深めていこうという内容で、「横浜市教育大綱」と「よこはま保育教育宣言」も入れている。無藤先生のコメントもあり、「架け橋に大切なことは何でしょう」という問いに、無藤先生は、「一言で言えば、こどもにとって楽しい、面白い、有意義な学校にしていこうということです。こどもがすることの面白さを見つけていく、見つけること、それが架け橋の肝です」とあり、架け橋の取組をすると、こどもがやること、こどもが言うことが面白い、関わるのが楽しいとなっていくとよい。	こども未来局 幼保企画課	「広島市教育大綱」の内容も踏まえつつ、本市の架け橋プログラムのめざす方向性等について当懇談会の御意見等を踏まえて考えていきたい。 ※資料2
	伊藤様	それらをどうしたらよいのかについての提案となる。1点目は、園と各園、就学前施設が、同じ方向に向かっていくため、もちろん、指針、要領等では同じような方向に向かっているが、分かりやすく広島市の保育・教育がこれからどうしていくのか、何を大切にしているのか、どの方向を目指しているのかについて、はっきりしたほうがよい。広島市には、「広島市教育大綱」があるが、就学前のことに限しての記述が少ないので、もっと広島市の幼児教育として大切にしたいこと、こどもの学び等について定めていけたらよい。横浜では、「よこはま保育教育宣言」で、こういう方向でいくというものが決められている。そういったものができないだろうか。	教育委員会 教育企画課 教育委員会 指導第一課	
	渡邊様	東広島市では、「よこはま保育・教育宣言」のようなものを作成しようと、関係課の課長、園関係者、小学校の先生、学識経験者、などが20人くらい集まって検討している。		
	伊藤様	今年は、「広島市教育大綱」の改定となる。教育大綱に乳幼児のことが書いてあるが、具体性に乏しい。例えば、「広島市教育大綱」を読み解くような形で、広島市の乳幼児期にはこういうことを目指そうというものを、横浜市のようにできるとよい。是非、検討してほしい。		